

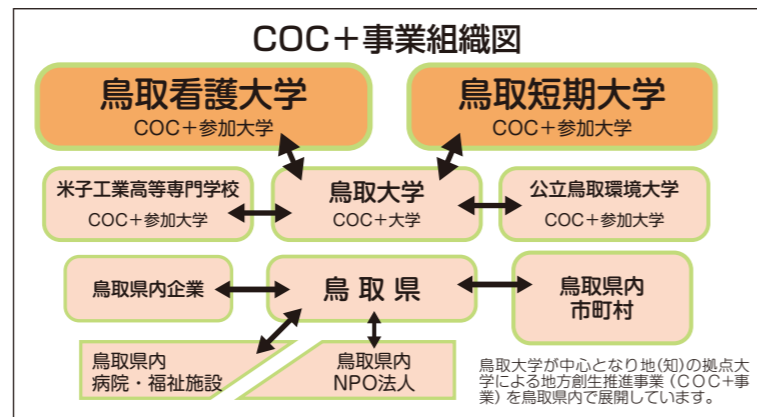
## 第21回 因幡の手づくりまつりに参加しました (6/25)



「因幡の手づくりまつり」が、鳥取市文化センターで開催されました。今回は、鳥取短期大学生生活学科食物栄養専攻の学生・教員が「もちもちおえかきパンケーキ」体験の場を提供し、幼児教育保育学科の学生は参加チケットの販売を担当しました。鳥取短期大学で第8回(2004年)を開催して以来、県内の他大学とともに13年にわたって多くの学生・教職員が実行委員として携わりました。地域で子どもを育むイベントとして継続的なつながりも生まれ、小学生の頃に参加した経験のある学生たちが、今回運営側として活躍しました。地域に飛び出し日頃の学びを活かす機会は、学生たちにとって貴重な経験となりました。

## 鳥取看護大学・鳥取短期大学 COC+事業推進室を紹介します

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」は、平成27年度より始まった文部科学省の事業で、地方創生の一環として大学が地方公共団体、企業等と協働して学生の地元定着を促進するものです。本県では、鳥取大学が中心となり、5つの高等教育機関が連携して取り組んでいます。鳥取看護大学では、「まちの保健室」の活動等を通して、地域の人々の生活と健康を支え、実践力をもつ看護職者の育成を図っています。鳥取短期大学では、「現代鳥取学」などの地域志向科目、キャリア教育、地域インターンシップ等により学生の地元就職への意識を高めています。



## 公開講座のご案内



- 会場 倉吉交流プラザ 視聴覚ホール
- 入場無料

平成29年度とっとり県民カレッジ講座  
未来をひらく鳥取学 特別講座

9/1(金)13:30~15:00

「まちの保健室」と地域の支え合い

田中 響 [鳥取看護大学  
看護学部看護学科 教授]

平成29年度鳥取看護大学・鳥取短期大学  
公開講座～笑顔で支え合う・思いやる～

8/18(金)13:30~15:00

『看護の人間学 一寄り添い』

荒井 優 [鳥取看護大学  
看護学部看護学科 教授]

9/15(金)13:30~15:00

『心にいつも歌を』

白石 由美子 [鳥取短期大学  
幼児教育保育学科 教授]

## 北東アジア文化総合研究所の閉所について

北東アジア文化総合研究所は、2017年3月31日をもって閉所いたしました。これまで当研究所が行っていた取組みは、2017年4月1日より、「鳥取看護大学・鳥取短期大学 グローカルセンター」にその一部事業を移管しました。

<発行> 鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンター 〒682-8555 鳥取県倉吉市福庭854  
TEL:0858-27-0107 FAX:0858-26-9138 E-mail:glocal@ns.cygnus.ac.jp

<印刷> 有限会社 矢積印刷 倉吉市宮川町2-36



# 鳥取看護大学 グローカルセンターだより 鳥取短期大学

第1号 2017.8.10

## グローバルセンター新設によせて

学校法人藤田学院 理事長 山田 修平

人、もの、情報が国境を越え行き交う時代、企業にしろ、個人にしろ、海外との行き来は日常化しています。とはいえ足元を固めず、地球規模に活動するだけでは、根無し草になりがちです。他方、どの地方に生活していても、グローバル化とは無関係では有り得ません。

鳥取看護大学・鳥取短期大学は『地域と共に』を運営理念としています。その核として平成19年、地域交流センターを設置し、地域との交流を推進してきました。他方、平成6年に北東アジア文化総合研究所を開設、北東アジア諸国を研究し、交流活動を展開してきました。

平成27年の鳥取看護大学創立以降、交流する国々は広がってきました。また地域においても、昨年のWTC(ワールド・トレイルズ・カンファレンス)の地元開催に象徴されるように、地域と世界が一体化してきました。ここに専任スタッフを配置、両機関を統合しグローバルセンターを新設、新たな時代を切り拓くべく歩み始めました。Think globally, act locally です。

### グローバルセンターの主な取り組み

海外研究・交流部門



「セント・トーマス大学(フィリピン)との交流」

地域研究・教育・交流部門



「ワールド・トレイルズ・カンファレンス」

自治体、産業界・企業および  
教育機関等連携部門



「鳥取県との連携協定」

「まちの保健室」研究・教育部門



「まちの保健室」

## 日本災害看護学会の 開催によせて

鳥取看護大学 学長 近田 敬子

第19回年次大会を2017年8月25日(金)と26日(土)に、鳥取県立倉吉未来中心および三朝温泉で開催いたします。山陰の地では初開催であり、教職員は心を込めて準備に当たっています。テーマは「ソーシャル・キャピタルの醸成と災害看護」としました。

日本災害看護学会では、あらゆる災害時の実践知を集積し、災害看護学の体系化を図っています。折しも、学会開催地が鳥取県中部地震の影響を受け、避難所や訪問活動、および被災地域「まちの保健室」などで災害看護の実際を経験し、テーマに沿った実践知を産み出しているところです。災害支援における互酬性のある地域の在りように焦点をあてて、議論できることを願っています。公開講座はどなたでも入場できます。皆さまのご参加をお待ちしております。

一般社団法人 日本災害看護学会 第19回年次大会

## 公開講座のご案内 (入場無料)

2017  
8/25(金)・26(土)

会場 倉吉未来中心大ホール 他

■25日(金) 13:20~14:20

災害に対峙する  
～発災から「復興」への道～  
●平井伸治氏(鳥取県知事)

■26日(土) 12:30~14:00

三角巾を用いた応急処置と  
レスキューフーズの試食  
●(一社)日本災害看護学会社会貢献・広報委員会  
【第19回年次大会事務局】

学校法人藤田学院 鳥取看護大学



## サント・トマス大学看護学部（フィリピン）の 学生と教員が鳥取看護大学に来学されました！

鳥取看護大学は2017年7月10日～13日の3日間、フィリピン共和国のサント・トマス大学看護学部の3年生9名と教員2名を受け入れ、看護学研修を行いました。初日は理事長、学長、グローバルセンター長などへの表敬訪問、鳥取県について紹介の後、ウェルカムパーティーにて学生・教職員と交流しました。2日目は三朝温泉病院と老人保健施設（ル・サンテリオン）を見学し、地域医療・介護の現場を学びました。最終日は、看護大学の実習室見学を行った後、白兔海岸、鳥取砂丘、砂の美術館といった観光地を訪れ、鳥取県への理解を深めました。最後に近田学長からサント・トマス大学の学生へ修了証書が授与されると、日本語による感謝のスピーチと、民族衣装でダンスが披露されました。修了式には鳥取看護大学の学生も出席し、将来同じ道を歩む学生同士で、「きっとまたどこかで会おう！」と語り合い、別れを惜しみました。



## 自治体・産業・企業および教育機関等連携



### 株式会社サンセキとの墓石デザインに関する 連携協定を行いました

㈱サンセキの熊野俊也代表取締役社長と鳥取短期大学の松本典子学長が、2017年5月11日に墓石デザインに関する連携協定を結び、協定書に署名しました。㈱サンセキは、鳥取県にある全国トップクラスの石材総合商社で、10年ほど前からデザイン墓石に力をいれておられます。近年、洋型墓石や様々なニーズに対応するため、学生の柔軟な発想で制作された斬新なデザインを取り入れたいと依頼があり、今回の協定が実現しました。今後、生活学科住居・デザイン専攻の学生が墓石デザイン制作に取り組みます。



## 教員紹介



鳥取看護大学  
看護学部 看護学科

あら かわ みつ え  
教授 荒川 満 枝

- 出身：福岡県
- 専門分野：感染看護学、看護病態学
- 学位：博士(医学)
- 最終学歴：大分大学大学院医学系研究科博士課程

鳥取看護大学にご縁を得て、2年と少し前に1期生の入学式に臨席したのが遠い昔のことです。私は、解剖・生理学、病態生理学、感染免疫学といった基礎医学系を担当していますが、これらを通して、看護の対象である生命という壮大な世界の素晴らしさを、学生と共に感じたい一心でおります。

研究では専門の感染症看護を背景に、国内外で手指衛生に関する研究を行っています。国内は勿論、マニラの感染症専門病院やサント・トマス大学、マレーシアのマレーシア大学サバ校にも共同研究者がおり、時にそれらの仲間を本学にお招きしていますが、本学の上司や同僚はそういった時にも温かいサポートをくださいます。ここ倉吉で、多くの信頼できる上司や同僚と共に歩く精一杯の日々を堪能中です。

## 地域交流・地域連携



### 2017年度「高齢者向け生涯学習事業」を開催、 江府町と岩美町の方々が大学で学生体験！

鳥取看護大学・鳥取短期大学では昨年度から「高齢者向け生涯学習事業」の一環として、高齢者講座を開講しています。65歳以上の高齢者を対象に「学び直し」の観点から、大学の知的資源を活用し、地域の方々に学習の機会を提供しています。今年度は江府町と岩美町の2ヵ所で、それぞれ6月から9月にかけて全3回実施します。

第1回目の講座には、江府町より24名、岩美町より14名の来学がありました。はじめに鳥取短期大学 松本典子学長が、本学の教育の特徴や健康と運動について講演されました。参加者からは「今の年齢の健康状態を長く維持できるようウォーキングやゴルフに励みたい」などの感想が聞かれました。講演後は、とりたんキッチン（食堂）で学生の人気メニュー『ロコモコ丼』を味わいました。その後、緋美術館や付属図書館等の見学の後に、附属こども園を訪れ、音楽に合わせて楽しく英語を学習する子どもたちの姿を参観しました。



### ボランティアとして学生が様々なイベントに参加しました

SUN-IN未来ウォーク(6/3・4)  
すいか・ながいもマラソン(6/18)

ボランティア体験記  
鳥取看護大学 看護学部看護学科  
2年 吉岡愛莉さん、林冨香さん



SUN-IN未来ウォークではスタート・ゴール時のスタンプや礼状書き、北栄町のすいか・ながいもマラソンではランナーの受付と完走証の配布を担当しました。どちらのイベントもたくさんの方々の参加者と関わることができ、笑顔で対応することや「おつかれさまでした」などの声掛けが大切であることを改めて感じました。ボランティアで得た経験を、大学の学びに活かしていきたいと思っています。

### 「第7回 中部発！食のみやこフェスティバル」 に出展しました(6/25)

鳥取短期大学生生活学科食物栄養専攻1・2年生の有志学生と教員が、「第7回中部発！食のみやこフェスティバル」に出展しました。鳥取県産米粉を100%使用した「バナナマフィン」「チョコマフィン」、鳥取県産米粉と大山小麦（全粒粉）を使用した「とりたんクッキー」の3種類の商品を販売しました。学生たちは、地域イベントに参加することで、地元の方々と交流を深める有意義な機会となりました。

